

オンライン授業を受けやすくするため時間割を工夫

休校期間は3月上旬から6月中旬までの3カ月あまりでした。当初は紙の教材を郵送し、また解説動画を教育支援プラットフォーム「Classi」で配信するなどしながら、同時双方向型オンライン授業の準備を進めました。

まず行ったのは、生徒が自宅でパソコンやタブレットを持っているか、Wi-Fi環境が整っているかなどの調査です。また、Zoomの使い方マニュアルを作成したり、時間割を検討するなどしました。

時間割は、最初は1日5コマ（1コマ50分）でしたが、生徒の負担などを考慮して4コマに変えました。午前中2コマ、午

後2コマで、昼の休憩は1時間半、また午前と午後に20分ずつ質問の時間を設けました。質問は個別に受け付け、Zoomで回答します。また、オンライン授業はすべて録画してYouTubeで限定公開し、通信状態が悪くて授業を受けられなかった際などに見返せるようにしました。

英語のオンライン授業を始めるにあたって意識したのは、一方通行にならないようにすることです。生徒が集中して教師の話の聞けるのは15分ほど。そこで、Zoomのブレイクアウトセッションの機能を使って、音読などのグループ活動を適宜はさみ込むようにしました。



五島佳奈先生

休校期間を振り返ってみて、個々の生徒とのやり取りが通常よりも増えたと思います。質問にZoomで回答したほか、メールやClassiでもやり取りをしました。音読アプリを導入したこともあり、生徒1人1人の音読を確認する時間も通常より取れました。これらはよかった点だと考えます。また、自分のペースで勉強に取り組みやすかったなどの理由から、生徒からも総じて好評でした。

教材#01

総合英語 One



教材の使用法

▶ 授業と自学で使用

週2コマの「英語表現」で使用。本書準拠「Grammar Book」「Workbook」の該当ページを解き、答え合わせまでを行うことを宿題として課す



指導用PowerPointのスライド。1ユニット20～30枚ある

コミュニケーションの土台となる文法力を身に付ける

採用したのは、中学で学んだ文法の基本事項を最初に復習できるつくりになっているからです。既習事項をおさらいして、英語と日本語の違い、英語特有の構造などを整理しておける点がいいと思います。週2コマの「英語表現」で使っていますが、英語でのコミュニケーションの土台となる文法力を身に付けるべく、指導を行っています。

◎オンラインでの活用

Zoomの機能を使ってペア活動

休校期間中のオンライン授業は、①文法項目の説明、②簡単なエクササイズ、③質問という順に進めました。

①文法説明には、採用特典である指導用PowerPointのスライドを使います。こうした素材は授業準備の時間短縮になり、助かりました。文法説明には、前回の授業で出した宿題の解説と合わせて、15分ほどをかけます。内容を理解できているか、随時こちらから質問をしますが、わかる生徒にはZoomの「挙手」機

能で合図してもらい、答えてもらいます。

②エクササイズは15～20分ほど。テキストを見ながらの例文のリピートのほか、ペア活動で例文を「速読み」したり、問題を出し合ったりします。「速読み」は文字どおり速く読むことを競うもので、生徒に人気が高い活動です。こうしたペア活動はZoomのブレイクアウトセッションの機能を使って行いますが、教師は各ペアの活動をチェックして、必要に応じてフィードバックをします。

③質問は生徒から個別に受け付けます。質問がない生徒は『総合英語One』のGrammar Book、Workbookの宿題を解く時間にしていました。

英語の授業にかぎったことではありませんが、本校ではオンライン授業は教師2人体制で実施しました。1人は本来の担当教師で、授業を行います。もう1人はICTに関する授業運営のサポート役で、たとえばZoomの「画面共有」「ブレイクアウトセッション」などの機能がうまく使えるように支援しました。